

1. 日本人が宗教を忌避する感覚について
2. シャーマニズムが現代サブカルチャーに与えた影響

2020/08/01

DEEP ACID

1.日本人が宗教を忌避する感覚について

1-1.新興宗教への懐疑はオウムだけか？

- オウム以外でも、信者以外では創価学会も幸福の科学も一般社会で忌避されている傾向がある。
- 原因：強引な布教、勧誘、資金をめぐる不祥事など。

# 1.日本人が宗教を忌避する感覚について

## 1-2.日本人の無宗教志向は何が原因？

- 新興宗教の不祥事報道

→信仰そのものを公言することが憚れる空気ができた

(新興宗教と関わるのが少ない地方の高齢者は意識せずに宗教活動(集会参加、寄付など))

- 神仏習合から神仏分離へ (明治維新下での神仏判然令)

- 国家神道を国教化する目的 = 既存宗教が圧迫を受けた

- 日常的習俗が廃れ、冠婚葬祭と初詣など非日常の場面でしか宗教行事に参加することがなくなった

1.日本人が宗教を忌避する感覚について

1-3.イスラム教も日本人は報道を通じて過激派と混同している

在日外国人、観光客が増えている中、イスラム教施設やハラール認証された食品やメニューを扱う店は日本には非常に少ない（礼拝そのものが1日5回あるため、都度メッカの方角を確認する必要がある）

・都内のイスラム教施設

- ・東京ジャーミィ（代々木上原）
- ・パライ・インドネシア礼拝所（目黒）
- ・大塚モスク（大塚）
- ・浅草モスク（浅草）
- ・御徒町モスク（御徒町）
- ・蒲田モスク（蒲田）
- ・アラブイスラーム学院（元麻布）

→神社仏閣はもちろん、キリスト教会ですら街に一つはある中で、モスクの少なさは突出している。（日本人の信仰者が極めて少ない）

1.日本人が宗教を忌避する感覚について

1-4.シャーマニズムの本質は共同体志向

- 先祖崇拝（先祖との霊媒を通じた交流）→家族を大切にする心  
→現代の個人主義とは相入れない感覚（資本主義を取り入れたため、個人から土地や家への帰属を緩め、さらに個人消費を高める必要があった）

## 2. シャーマニズムが現代サブカルチャーに与えた影響

### 2-2. シャーマニズムのサブカルチャーへの影響

- サイケデリックロック/トランスはシャーマニズムにインスパイアされている  
インドネシアのガムラン、青森の津軽三味線の延長上にある高揚感のある音楽(extacy)。

## 2. シャーマニズムが現代サブカルチャーに与えた影響

2-2. 音楽などのエンタメパフォーマンスを評価する言葉として「癒される」「元気になれる」と言う言説は、宗教衰退に応じてエンタメに宗教的救いを求めている？（筆者仮説）

- 以前のエンタメパフォーマンスの評価軸は「カッコイイ」だった。
- 高度成長社会から低成長社会に変わり、エンタメの担う役割が変わってきている？
- メディアの変化（レコード→CD→ネット配信）と並行して、聞き手の意識にも変化。（パッケージがなくなり、SNSの普及で作品とアーティストの境界がより曖昧に）
- アーティスト崇拝は昔の方がすごかった（最近は一マンライブが減っている）が、「好き過ぎる」と言うファン心理は今も根強くある。